

図-34 枝の更新サイクル

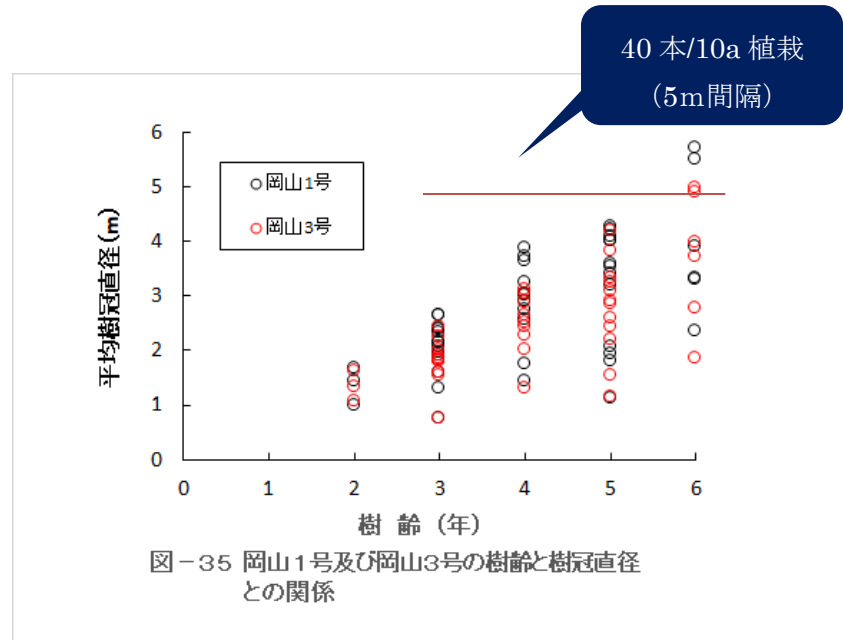
(埼玉県農業技術研究所センターの資料を基に作成)

## 5 間伐

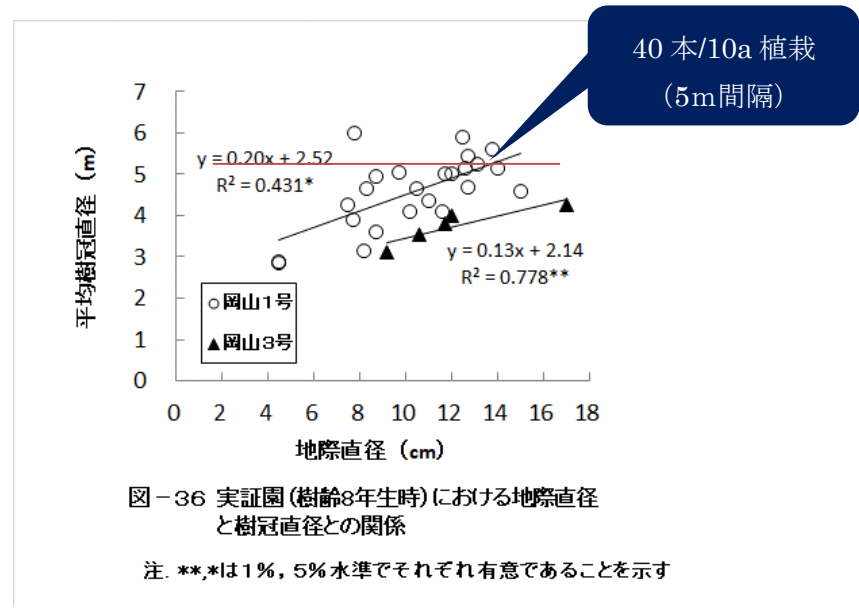
・枝は仕立て直してから、ほぼ3年サイクルで更新する（図-34参照）。

- ・10a 当たり 36～40 本の密植栽培では、10 年後に 20 本、15 年後に 12～15 本程度まで、縮伐・間伐を実施する。
- ・5 年生樹までは、岡山 1、3 号ともに、樹冠直径\*は 5 m 以下であるのに対し、樹齢が 6 年生になると、樹冠直径は 5 m より大きい個体が増加し（図-35 参照）、隣接樹同士が接し始めるため、間伐を実施する。
- ・地際の直径（接ぎ木部位直下）が 15cm 程度に達すると（樹冠直径 5.5～6.0m）、岡山 1、3 号ともに、第 1 回目の間伐時期に達したと考えられる。
- ・縮伐・間伐は、樹に葉が残っている状態（年内）の方が、樹の混み具合がよくわかり、作業効率である。
- ・樹勢が非常に悪く、収穫が見込めない樹は、早めに間伐し、改植する。

- 5 m間隔で植栽した場合、植栽後6年目には、一部、隣木と接し始める (図-35 参照)。



- 樹齢が8年生に達すると、5 m間隔で植栽した場合、樹同士が接するケースが一部で発生するため、間伐や縮伐を実施する必要がある (図-36 参照)。



- ・樹齢12年生に達すると、樹冠の大きさが5～9mにもなり、樹同士が接するため、縮伐・間伐が必要である（図-37 参照）。

-22-

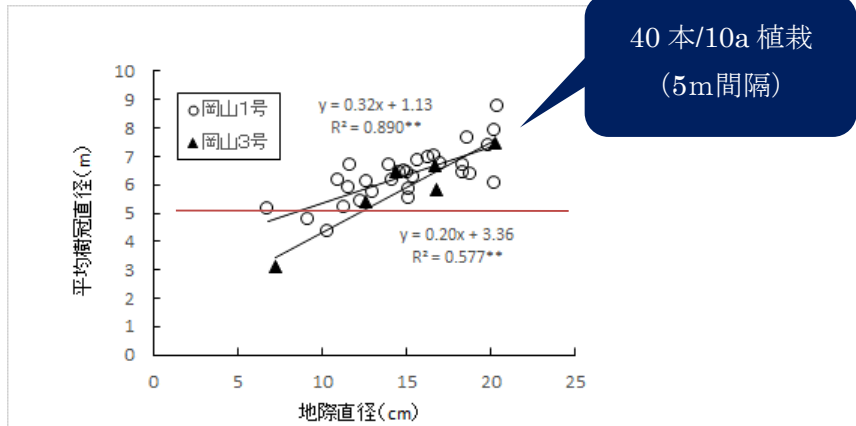


図-37 実証園(樹齢12年生)における地際直径と樹冠直径との関係

- ・樹齢5～6年生では、樹間が5mあれば、樹と樹はほとんど接していない（図-38 参照）。



図-38 樹齢5～6年生の栽培園地  
(勝央町河原地区)

- ・樹齢12年生になると、樹間が5mでは樹と樹が接するため、縮伐・間伐を要する（図-39 参照）。



図-39 樹齢12年生の栽培園地  
(森林研究所内実証園)